



森 泰人スカンジナビアン・コネクション 第41回ツアーチ
The 41th Yasuhito Mori's Scandinavian Connection

Scandinavian Tommy Kotter 青の世界 blue

北欧と日本の音楽の掛け橋である
スカンジナビアン・コネクションツアーチの41回目は、
創造性豊かで透明感のある
Tommy Kotterの憂いを帯びたbluesyな世界へ、ご案内いたします。

トミー・コッテルトリオ ツアーチ

Tommy Kotter : piano

トミー・コッテル

Yasuhito Mori : bass

森 泰人

David Sundby : drums

ダービッド・スンドビー

4/10(月) 大阪 Mr.Kelly's
TEL.06-6342-5821

4/13(木) 名古屋 Mr.Kenny's
TEL.052-881-1555

4/11(火) 芦屋 Left Alone
TEL.0797-22-0171

4/14(金) 東京 Body & Soul
TEL.03-5466-3348

4/12(水) 浜松 ポルテボヌール
TEL.0120-208-809

4/15(土) 新潟 Jazz Flash
TEL.025-224-4518

4/16(日) 横浜 JazzSpot DOLPHY
TEL.045-261-4542



The 41th Yasuhito Mori's Scandinavian Connection Scandinavian blue Tommy Kotter trio



トミー・コッテル
Tommy Kotter / piano, composer

ピアニスト、作曲家

1956年6月24日Borasに生まれ、
Svaneholmで育つ。幼少の頃から
合唱団に参加して歌を唄う事に親しみ、
バイオリンとクラリネットを演奏。12歳で
ピアノを始める。

1974年、イエーテボリ音楽大学に入学。
ソロ・クラリネットを学ぶ。

1975年、イングランド音楽大学に転部し作曲法を学ぶ。
1970年代からジャズと作曲に専心し、100以上の作品を発表
している。1983年以降はイエーテボリに在住し、数多くのグループ
に在籍する。

ボーヒュスレーン・ビッグバンドのピアニストとしても活躍し、バランスの
取れた演奏は定評がある。

1985年、森 泰人をコントラバス、Raymond Karlssonをドラムスに
迎え、自己のトリオを発足。

1993年、初の自己リーダーアルバム、Tommy Kotter Quintet "Ritual
Dance" (Imogena IGCD33)を発表。2002年、ソロ・ピアノ作品
"Blue" (IAM/Amigo) 2003年秋、ボーヒュスレーン・ビッグバンドの
日本ツアーエンで初来日。

2005年1月、Tommy Kotter Trio "Celebrating Spring" (SOL
SC-0010)を発表、同年8月には2003年イエーテボリ・ジャズ協会から
依頼され、ピアノトリオに4管編成と云うアンサンブルの為に
書かれた "Tommy Kotter Unit" (Imogena IGCD 110)を発表。
続く同年11月には、ラーシュ・ヤンソンとのピアノデュオ作品
"Sound Pictures" (SOL SC-0015)も発表している。

スウェーデン、北欧を始め、Jerry Bergonzi, Steve Swallow,
Low Soloff, Dick Oats, John Surman, Kenny Wheeler, Maria
Schneider, Bob Mintzer, Clark Terry等、数多くの欧米のプレーヤー
とも共演し高く評価されている。

また素晴らしい音楽性のみならず、温厚な人柄とを併せ持つ
Tommy Kotterは、多くのミュージシャンに慕われており、彼が
参加している録音作品は数多い。

彼の作曲は、暖かさに溢れ、その物語性、叙情性は、日本でも
数多くのファンを持っている。

1984年以降、イエーテボリの音楽高校でも教鞭を取り、数多くの
若手音楽家育成にも力を注ぐ一方、ボーヒュスレーン・ビッグ
バンドのレギュラー・ピアノ奏者としても活躍している。



森 泰人
Yasuhito Mori/ bass

コントラバス奏者

1952年、東京都生まれ。青山学院
高等部在学中からコントラバスの
演奏を始める。

1971年から、当時、NHK交響楽団の
首席コントラバス奏者・小野崎充氏に
クラシック奏法を師事。

1981年、スウェーデンに移り住み、
北欧を中心に活動を始める。1982年からボブ・バーグのスカンジ
ナビアン・クワイントettに参加。

スウェーデン国内はもとより、ジョージ・コールマン、リー・コニツ、
アート・ファーマー、ケン・ペプロフスキーニーその他、国内外の有名
プレーヤーとの共演歴は数多い。1985年、ボーヒュスレーン・
ビッグバンドのレギュラー・ペーシストに就任。1989年、スタン・
ゲットのヨーロッパ・ツアーエンに参加。1992年からトウツ・シールマンズの
スカンジナビアン・カルテットにも起用される。1998年には、ワールド・
ミュージックで高い評価を受けているアーレ・ミュラー率いる
ストックホルム・フォルク・ビッグバンドに参加。2000年、スウェーデン・
ジャズ界の大御所、プッテ・ヴィックマン・カルテットでカーネギー
ホール出演。

1994年秋に「スカンジナビアン・ジャパン・コレクション」と云う名称で
日本と北欧での演奏活動を開始し、北村英治、鈴木良雄、
おおたか静流、ウォン・ウインツアン、伊藤君子、中川昌巳等、
日本の音楽家を北欧に紹介する一方、ラーシュ・ヤンソン、
アンダーシュ・パーション、ウルフ・ワケニウス、ボーヒュスレーン・
ビッグバンド等、数多くの北欧の音楽家を日本へ紹介し北欧と
日本の音楽交流に貢献している。北欧ジャズ・ブームの切っ掛けの
一部を担った功績は高い評価を受けている。



ダービッド・スンドビー
David Sundby/ drums

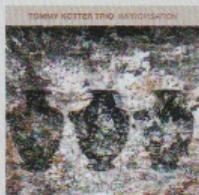
1954年9月24日、南スウェーデンの
大学町として知られるLund市に生まれ、
幼少の頃からチェロやパーカッション、
ピアノ親しむ。

英文学者の父の仕事の関係で、
ノルウェーのベルゲンで青春時代を
過ごした関係もあってノルウェーの
ジャズ・ミュージシャン達とも深い交流

がある。1971年、イエーテボリ音大ジャズ・インプロビゼーション科
に入学。

特にアンダーシュ・ヤーミーンやウルフ・ワケニウス、ラーシュ・
ダニエルソンも在籍した事で知られる「Mwendo Dawa」のドラマ
として、25年以上在籍している。現在は上記「Mwendo Dawa」、
「Lars Lindgren Band」等始め、ソウル系のグループでも演奏して
いる。これまで1983年のモントレー・ジャズ祭を皮切りに、ノースシー・
ジャズ祭、エノスアイレスジャズ祭、モントリオールジャズ祭等、
数多くのジャズ祭等にも出演。ピアニストも彼に質問する程、
ハーモニー&メロディーに対する繊細な感覚、また素晴らしいタッチを
持つドラミングは完璧である。

Nilento records New Album 4/10 発売決定!!



IMPROVISATION
NILCD171



TENDER LAND
NILCD172